見出し新聞らしく

基本パターン用意

バランスを自動調整

新聞独自の見出しや、写真の説明文が付いた「エトキ」。本ソフトでは、一般的なＤＴＰソフトやワープロでは作成に手間が掛かる素材を手軽に作成するための工夫が凝らされている。適切な文字サイズとバランスがあらかじめ用意された見出しパターン。自動的に画像との空きが調整される写真説明文。最低限度の操作で新聞らしい素材が作れるようになっている。

大きさの違う10文字前後の文字列を複数組み合わせる、新聞独特の見出し。本ソフトでは、こうした新聞見出しを手軽に作成できる機能を備えている。

全体の大きさに応じて、シンプルな1本見出しや一般的な2本見出し、さらに頭付きなど、一通りのパターンを提示。適切な文字サイズがあらかじめ指定されるので、選択して文字を入力すれば、新聞らしいバランスの取れた見出しができあがる。文字サイズは大・中・小の3パターンから選べる。

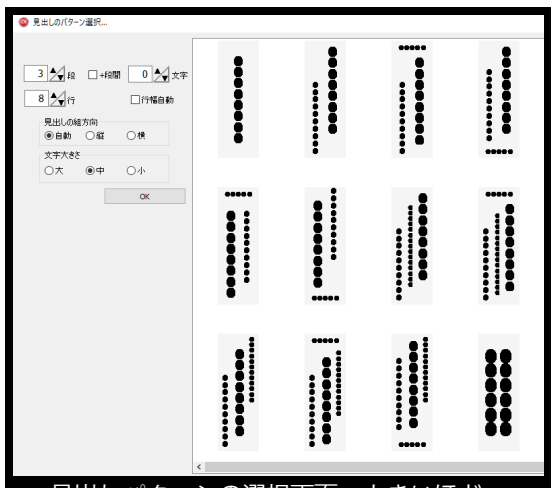
もちろん、パターン選択した後で、本数を増やしたり減らすことも出来出来る。文字サイズの変更も当然可能だ。

見出し文の上下左右の位置も、新聞独自のバランス「ちどり」を自動設定。位置を手動で指定しなくても新聞らしいバランスに配置される。

一方で、変則的な見出し用に、位置の自動調整を天地のみ、左右のみにそれぞれ限ったり、あるいは完全に任意な位置に自由に動かすことも可能だ。

２本見出しをほぼ下揃えにする近年の新聞業界の流れに対応、一定以上の長さの２本は自動で尻揃えに近くする。短い場合は伝統的なちどりになる。

見出し画面で選べるフォントは、初期値では、ＰＣにインストールされた全フォントから、日本語対応の等幅フォントだけを提示。うっかりプロポーショナルフォントを選んで、がたがたの体裁の悪い見出しになるのを防ぐ。［動作環境の設定］で、画面で使えるフォント候補をさらに絞り込んだり、あるいはあえて非等幅フォントを追加することも出来る。



見出しパターンの選択画面。大きいほど、選べるパターンが増える

地紋40種類 自動縁取り

新聞業界では消えつつある地紋も、縦線・横線・斜線・渦の４タイプ計40種類を準備。その形状も四角以外に角丸、楕円、台形、三角、円弧、食い込み円と50種類以上の多彩なパターンを用意している。一昔前の新聞風地紋を使える。

文字部分も色を付けたりグラデーションにしたり、さらに上記の地紋を文字部分に設定する「地紋文字」も可能。

文字の縁取りは、背景と文字色から自動で白黒切り替え。独自の色設定や敢えて縁無しにもできる。スポーツ紙風の二重縁取り効果もある。

影付き効果は、背景にも文字にも設定できる。映り影と立体影の２種類があり、ずらし位置は上下左右に０・１㍉単位で細かく指定できる。

グラデーション効果も同様で、背景と文字それぞれで指定可能。

ルビや傍線 多彩な修飾

ルビ・一部ゴシック・フォント部分変更…

記事や見出し、写真説明といった文字を表示する場面では、新聞らしい文字修飾が使える。

文字の一部をゴシックや太字にするほか、部分的に別のフォントに簡単に変えられる。

例えば一部ゴシック化する場合、いちいちフォント名を指定する必要はない。後述するタグを挿入すれば、記事の場合は、あらかじめ決めておいたフォントに、見出しの場合は現在のフォントに対応したゴシック体に自動的に切り替わる。

ルビ（振り仮名）も打てる。読みやすさを優先した全体ルビと、文字と個別に対応する個別ルビの２種類を準備している。写真説明の場合は、ルビの有無で説明文の領域も自動的に変わる。

フォントの部分指定は、ＰＣにインストールされた全フォントが選択対象。見出しや本文に不向きなフォントを、１文字だけ使って変化を付けたりできる。

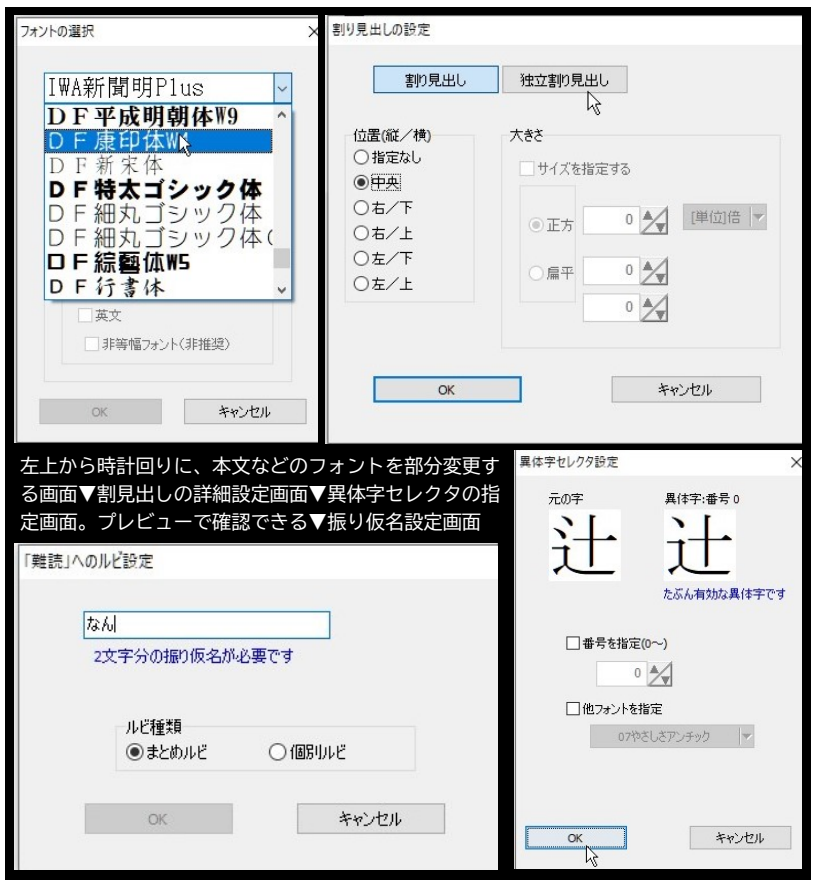
記事や写真説明の場合は、さらに傍線も引ける。

また、見出しの場合は、一部だけ文字サイズが変更可能な「割見出し」機能がある。見出しの上に小さくついた文字も手軽に使える。これもまた、背景や扁平率が本体と同じ都城の割見出しと、本体と別設定可能な「独立割見出し」の２種類を準備。特に後者を使えば、１本の見出し文で背景等を変えるなど凝った表現も可能になる。

記事の署名や写真説明の撮影者クレジットなど、文章の末尾部分を「尻揃え」にする機能もある。いちいちスペースを打って調整するような面倒な作業は不要だ。一度指定しておけば、本文部分の文字数が変わって常に末尾になる。

これらの修飾は、ＨＴＭＬに似たタグ方式を採用。ホームページやブログ等を運営している人には、馴染みやすいだろう。とはいえ、特別な知識は必要なく、修飾したい部分を選択して、ボタンを押すだけで簡単に設定できる。

タグの再編集も簡単。ダブルクリックで対象範囲を自動選択、ボタンひとつで編集画面が出せる。



左上から時計回りに、本文などのフォントを部分変更する画面▼割見出しの詳細設定画面▼異体字セレクタの指定画面。プレビューで確認できる▼振り仮名設定画面

「わたなべ」の「なべ」の異体字計47（字雲フォント利用）

【辺】辺【邉】邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉【邊】邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊

祇▼祇　辻▼辻　芦▼芦

ＩＶＳ対応 漢字10万超

タグでは異体字セレクタにも対応。１点しんにゅうの「辻」やネ偏の「祇」なども使える。渡辺の「辺」の膨大な異体字も表現可能だ。

フリーの字雲フォントを併用すれば、10万を超す漢字が表現できる。記事の一部だけフォントを変更することも出来るので、異体字セレクタ未対応のフォントを使っていても、異体字部分だけを変えられる。

指定時はプレビュー画面を表示。実際に字形を確認しながら指定できる。

このＰＤＦはＣＣライセンスで配布され、営利・非営利を問わず自由に利用できます。改変は不可です。

「ミニ記事」で大量情報

スポーツ大会の記録や表彰名一覧、人事情報など、人名や数字が大量に並ぶ記事は、紙面の中でスペースを取りがちだ。こうした記事は通常の記事部分より一回り文字を小さくし、行間を狭くすることでスペースを節約して収容できる。

操作は簡単。文字の大きさは記事エディタで［文字サイズの設定］をクリックし「ミニ文字」を選択するだけ。例えば12文字組の紙面なら一文字多い13文字にぴたりと収まる文字サイズが自動的に設定される。「ミニミニ文字」を選べばさらに一文字多い14文字用のサイズになる。

行間も［やや狭い］［かなり狭い］などから選べば、本文部分と比較して適切な行間が指定される。０・１ポイント単位で任意の値も設定できる。

覚えておきたい

新聞・編集用語

仮空白　レイアウトの基本

紙面作成する場合、見出しや画像をいきなり配置することももちろん可能だが、先にレイアウトをしておきたい場合に使うのが仮空白。後から見出しや画像、箱組に変えられる。灰色で表示される。

先に記事だけを流し、紙面を仮に完成させておいて、後から見出しの中身を考えることが出来る。写真やイラストはまだ無いが、あとから入れる場合にも便利。

仮空白は他の素材と同様に、拡大・縮小したり移動したりできる。一度紙面から外すと、無くなるので注意が必要。

特殊な仮空白として、画像専門の「予約画像」もある。色付けされてレイアウトが分かりやすくなる。写真説明も付けられるので、後から撮影した写真に差し替えることも出来る。仮空白から右クリックメニューで作成可能。

罫線・段罫　区切りをくっきり

多段組の新聞では、通常、段と段の間に線を引き、区切りをハッキリさせる。これを「段罫」と呼ぶ。狭い段間でも読みやすさを保つ効果がある。これにより限られた紙面で多くの文字を収容できる。

横見出しの真下など、あえて段罫を削除することで、記事のブロックをハッキリさせることもある。削除するケースは、ヘルプで詳説している。

箱組では、段罫を無くすことが多い。その分、段間を広めに取る必要がある。

一方「罫線」は記事の区切りをはっきりするための線。縦組の場合、縦の線になる。大きく区切る時は太めにすることが多い。関連した記事の場、あえて罫線を引かないことで、共通感を出すことも。

本ソフトでは、実線だけでなく、点線や２本線、３本線など10種類以上の罫線を用意している。

畳む　記事 自動折り返し

記事は、見出しや画像などの「障害物」に当たると、自動的に折り返す。しかし、そうした障害物がなくても、自動的に折り返すのが「畳む」操作。「折る」とも言う。

これにより、まず記事を折り返しておいてから、罫線を引いたり、見出しを置ける。あらかじ１行単位で正確に書いた記事を準備しなくても、おおむね予定したレイアウト通りに素材を配置していくことが出来る。

時間の制約が強い新聞編集の現場では、特に突然飛び込んだニュースを収容するため紙面を大幅に組み替える際に必須な操作。もちろん、趣味の新聞作りなど、時間に余裕がある場合でも、この操作でレイアウトをいろいろ変更したりも出来る。

例えば40行の記事を段で右に「畳む」と、10行幅４段分のブロックになる。